

会 議 概 要

会議の名称	平成 26 年度第 1 回 子ども・子育て会議
会議日時	5 月 29 日（木） 18:00～20:20
会議場所	座間市役所 5F－1 会議室
委員	大下聖治、渡辺廸子、大塚和光、中村保夫、山本安雄、田中敦、金子三枝子、鈴木いつみ、小澤ゆり、大友奉、尾崎幸利、上田イセ子、大木貴子、安藤潔、橋本俊幸
事務局	子育て支援課 電話 046－252－7969（直通）
次第	<p>委嘱式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱状交付 2 福祉部長あいさつ <p>子ども・子育て会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 会長あいさつ 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）子ども・子育て支援新制度について （2）子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の概要について （3）座間市の現状について （4）その他 3 閉会
<p>会議経過</p> <p>委嘱式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱状交付 2 福祉部長あいさつ <p>子ども・子育て会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 会長あいさつ 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）子ども・子育て支援新制度について <p>事務局より別紙「子ども・子育て支援新制度について」 「子ども・子育て支援新制度の施行スケジュール」説明</p>	

【質疑応答】

(委員)

座間市には企業内保育をやっている企業はありますか。

(事務局)

相模台病院などで実施しています。一般企業については把握していません。

(委員)

企業内保育でも、地域の人が利用できるとなると、補助金なども変わってくると思うので、把握したほうがいいと思います。

(委員)

スケジュールが前回とは違っているが、今年の会議は4回ということで良いのですか。

(事務局)

今年度は4回を予定しています。これよりも増やすとかなり詰まったスケジュールになってしまうと思います。

(委員)

一人一人が全部把握するのは難しいので分科会を開催するのはどうでしょうか。

(事務局)

人数的には15人とそれほど多くなく、様々な立場の人がいるので、ここで意見を言ってもらう方がよいと思っています。

(委員)

『保育料について』に『国が定める水準の上限とする』とありますが、国は基準を決めたのであって上限を決めたわけではありません。こういう文言は入れるべきではないです。

(事務局)

国の基準は利用者に負担してもらう金額の上限です。そういった文言と理解していただきたいです。

(委員)

保育標準時間が11時間と定められていますが、この時間を超えた保育は別事業になるのですか。11時間という区切りはない方がいいのではないですか。

(事務局)

11 時間を超えると延長保育になり、通常の保育料とは別途延長保育料が発生します。時間帯については、保育園ごとに 11 時間保育の時間帯を設定しており、それを超えると延長保育料が発生する仕組みです。ただ、今度、国では保育標準時間と保育短時間という二つの区分を設定することになっており、標準時間の区切りだけではなくなります。

(委員)

2 号認定、3 号認定を受けないと保育所を利用できないということですが、求職活動をしている段階では認定されないのですか。

(事務局)

求職活動でも、保育園の申し込みは可能です。仕事が決まったら就労証明書を提出してもらうことで、保育園の利用は可能だと認識していますが、確認しておきます。

(委員)

新制度はいつ広報に載るのですか。

(事務局)

今の予定では、9 月と 10 月です。

(委員)

10 月だと、園児募集が始まってしまうので 9 月上旬には知らせないと、保護者が判断しにくいと思います。

(委員)

9 月までの段階で細かいことまで決まらないのではないですか。だとすると、細かいことが決まっていないのに、こうなりますよということを広報に出されても困ります。

(事務局)

広報については、分かっているところから広報し、あいまいなところは広報しない予定です。

(2) 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の概要について

事務局より「ニーズ調査結果の概要について（未就学児）」

「ニーズ調査結果について（就学児）」

「用語解説」説明

【質疑応答】

(委員)

『量の見込みの算出』の概略を説明して欲しいです。

(事務局)

算出結果については、アンケートに出た生の数字を載せていますが、次回、もう少し分析した結果を示す予定です。

(委員)

直前に膨大な資料を読むのは難しいので、事前に要約されたものを送って欲しいです。

(会長)

回収率が上がると、結果が変わってくるということは考えられるのですか。

(事務局)

回収率よりも母数が小さくなってしまいうところに問題があつて、国の方針としても、市町村の実情に応じて個別に検討してくださいと変わってきたので、結果を踏まえながら、皆さんで議論をして決めて行く方向が良いと思います。

(事務局)

回収率は座間市はあまり良くなかったのですが、母数に対してどのくらいサンプルを取ったかという抽出率でみると、座間市より低い所がかなりあります。

(委員)

一般的な調査だったら、統計的に 38 パーセントは決して小さくはないと思いますが、一般的に修正する方法というものはあるのでしょうか。

(事務局)

国が、実際に見込まれる数字との乖離度の平均を出しているのです、それを使うことや、これから国が提示する予定の他の方法なども踏まえて、座間にとって最適な方法を採用して示していきたいです。

(委員)

アンケートや子育て会議、新制度を知らなかった人が多いので、回収率が低かったのではないかと思います。もう少し事前にPRが必要だったのではないのでしょうか。

(事務局)

広報はしていたがわかりにくかったと思います。今後の課題としていきたいです。

(委員)

この結果が全てではないと思うので、今後意見を吸い上げる方法を検討すべきではないでしょうか。

(事務局)

パブリックコメントなどで汲み取っていきたいと思います。

(委員)

保育園や幼稚園に出向いて意見を聞くことはできないのですか。

(事務局)

ある特定の所に出向いて行くと、特定の意見が強く出てしまうので、そういう方法は適切ではないと考えています。

(委員)

自由記述欄の記載を生かせないのですか。

(事務局)

代表的な多い意見をまとめて、汲み取って計画に入れていきたいです。

(3) 座間市の現状について

事務局より「座間市の現状について」説明

【質疑応答】

(委員)

児童ホームの場所を教えて欲しいです。

(事務局)

小学校4か所が立野台小学校、相模が丘小学校、栗原小学校、入谷小学校、児童館が鳩川児童館、ひばりが丘南児童館、相模野児童館、コミュニティセンターが相模が丘コミュニティセンター、相武台コミュニティセンター、立野台コミュニティセンター、ひばりが丘コミュニティセンター、東原コミュニティセンターです。

(委員)

小学校の児童ホームは、その小学校の生徒のみになるのですか。

(事務局)

相模が丘小学校については、待機児童用児童ホームという形で、相模が丘小学校、相模野小学校、相武

台東小学校の3か所の児童が通っています。

(委員)

児童館やコミュニティセンターは、学校のエリア関係なしに受け入れているのですか。私立に通っている場合はどうなるのでしょうか。

(事務局)

基本的には、各小学校区ごとに1施設ずつ児童ホームがあり、その学内の子どもを受け入れています。私立に通っている場合でも、居住している小学校区の児童ホームで受け入れています。

(委員)

利用には、親の就労状況などの基準はあるのですか。

(事務局)

両親の就労時間、就労日数をメインの判断材料として、一人親など特別な事情を考慮して入所選考をしています。保育できる人がいると利用はできません。児童ホームの利用時間外の就労だと対象外になってしまいますが、児童ホームの利用時間に就労していれば対象になります。ただ、点数をつけて要件の高い人から入れることになっています。市の児童ホームは、通常3名～4名の指導員で運営しており、それらの指導員が休暇を取る場合に勤務する代替の指導員もいます。

通常勤務の指導員については資格を持っている人を採用しています。

(事務局)

民間に委託している児童ホームが2か所ありますが、これは待機児童用になっています。

(委員)

私立幼稚園の総数が定員よりも多くなっている箇所の説明に、「この定員は園独自の基準であり」とありますが、私立幼稚園で園独自の基準というのはあり得ないです。

(事務局)

2つの幼稚園からそういう見解を示されましたが、確認をしておきます。

(委員)

定員よりも入所児童数が少ないのに、なぜ待機児童が出るのですか。

(事務局)

保育士1人でみることのできる園児が、年齢が低くなれば低くなるほど少なくなってしまうので、どうしても、ゼロ、1、2歳児の待機児童が増えてしまいます。なので、施設も重要ですが、いかにして長期的安定的に保育士を確保することができるかということが待機児童を抑制するポイントであると考え

ています。

(委員)

待機児童が多いから、今回、法律が変わるのではないですか。解決する方向にいかなくても良いのでしょうか。

(事務局)

施設に関しても重要ですが、人が集まらないことには何も取り組めないで、まずは保育士の確保が最優先であると認識しています。

(委員)

では、人材が確保できない限り待機児童は変わらないということですか。

(委員)

待機児童を解消するために幼稚園が認定こども園になる、という動きもあります。

(委員)

民間の保育園は120パーセントぎりぎり動いていますが、公立の保育園は入所児童数が定員を下回っているというのは不思議です。

(事務局)

保育士の確保について、昨年度から、民間保育園でも処遇改善事業というのを行っています。全国的にこうした動きがあり、こうした形で待機児童対策に当たりたいと考えています。

(4) その他について

【質疑応答】

(事務局)

次回平成26年度の第2回子ども子育て会議を、7月上旬に予定しています。次回のテーマは、今日の会議を受けての補足と、座間市独自の量の見込の提示を予定しています。それから、条例改正をしなければならないので、それについても示せるものがあれば示します。

(委員)

認定こども園については座間市には窓口がありませんでしたが、今後この制度によって、市には窓口を作るつもりがあるのですか。

(事務局)

次回までに検討して回答します。

(委員)

パブリックコメントは、どういう形で実施するのですか。

(事務局)

パブリックコメントはやり方が決まっていて、インターネットや広報への掲載、コミュニティセンターに書類を置くなどの方法で行っています。

(委員)

一時預かりに対するニーズも多いので考慮してもらいたいです。

(委員)

量の見込みの補正の仕方は、報告書に『市の施策意向など踏まえ』と書いてありますが、先ほどの人件費の話などは施策そのものであり、施策として検討していくべきだと思います。

(委員)

今回のスケジュールを早く出してほしいです。

(事務局)

では、7月10日木曜日18:00～でお願いしたいです。

(委員)

このスケジュールで見ると9月に条例制定がありますが、7月10日にはこの条例案も出るのですか。

(事務局)

国から上がってきたら出せるところまで出す予定です。

(委員)

座間市はスタートが遅かったですが、会議の開催件数は今のままの回数で大丈夫なのですか。

(事務局)

やっていく中で足りなければ検討したいです。

(委員)

量の見込での一時保育や待機児童解消のために、民間の保育ママの家庭的保育園などについても検討してほしいです。

(事務局)

この場で決めることはできませんが、設置したらどうかというご意見を頂くことは可能なので意見を言って欲しいです。

(事務局)

7月のパブリックコメントは、条例関係のパブリックコメントで、保育や児童ホームについて、国が「条例を変えなくてはいけない」と言っている部分が何か所かあるので、それについてパブリックコメントを実施しなければなりません。改正箇所については、次回、国からあがってきたら説明する予定です。

3 閉会